南アルプスを未来につなぐ

～次代を担う子ども達への取組～

くらし・環境部　自然保護課

令和4年10月24日

はじめに

世界クラスの自然環境を有する南アルプス

1　海底の記憶が刻まれ、今も隆起を続ける**『国立公園』**

2　豊かな生態系を守り活用する**『ユネスコエコパーク』**

3　日本に5か所、本州で唯一の**『原生自然環境保全地域』**

4　氷河期からの遺存種が今も残る**『世界の南限』**

富士山にも比肩する『世界の宝であり財産』

南アルプスユネスコエコパーク
教育ビデオ手引書、2016、一部加筆）

（南アルプス学術総論、2010）

南アルプスの持つ素晴らしさを次代を担う子ども達に伝えたい

『南アルプス環境学習アプリ』の開発に懸ける想い

＜現実＞

存在をほとんど知らない

- 流域以外の小中高生は、**南アルプスがどこにあるのかすらほとんど答えられません**。
- 登山者数で見ても、長野・山梨県両県の約１８４万人に対し静岡県は**約３万人**です。

＜なぜか・・・＞

- 南アルプスの研究者がほとんどいません。
- そのため、南アルプスを教えることができる人がいません。
- **だから、子ども達が南アルプスの魅力に触れ、学ぶ機会がありません。**

＜だから・・・＞

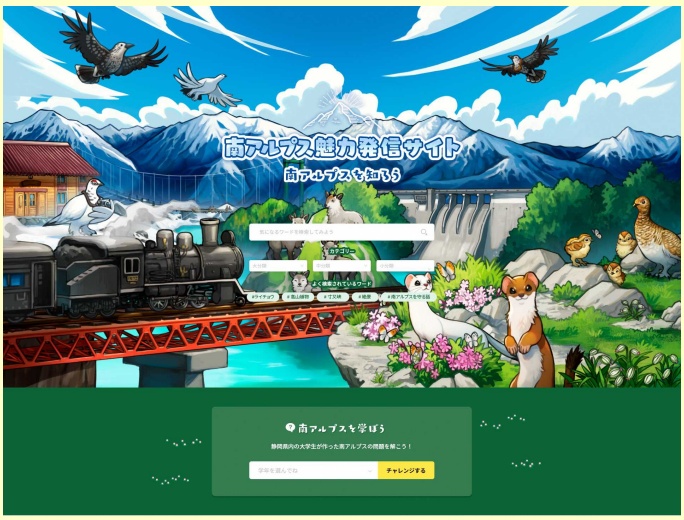
地域、流域はもとより、全国の子ども達が楽しみながら**南アルプスを体験し、学び、知り、そこに住んでいることを誇りに思えるような人を育むための仕掛け**を創ります。

南アルプスの持つ素晴らしさを次代を担う子ども達に伝えたい

子ども達に向けた2つのアプローチ

教科教育の視点から《設問形式によるアプローチ》

- 各学校に配備されているタブレット端末等を活用した設問形式のコンテンツ



五感を使った《体験学習によるアプローチ》

- 南アルプスに関する体験型環境学習によるコンテンツ

南アルプスの持つ素晴らしさを次代を担う子ども達に伝えたい

開発のポイント

現場の声を徹底的に活かした《実効性の高いコンテンツ提供》

- 小学校、中学校学校、高等学校及び大学などの授業や課外授業の場を提供いただき、幅広い年代の生徒や教師がPoC*に参加。
  ＊Poc：Proof of Conceptの略

月　日	実施校等
9月30日	井川、本川根中学校
10月10日	静岡大学トップガンプロジェクト
10月14日	磐田南高校
10月19日	浜松学芸高校
11月9日	井川、本川根小学校

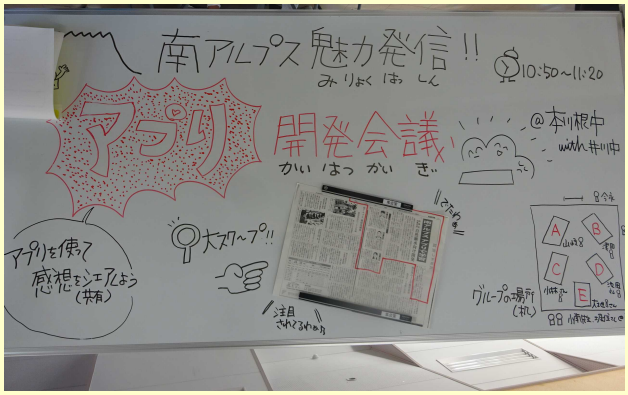
開発に携わること自体を《人材育成に繋げる》

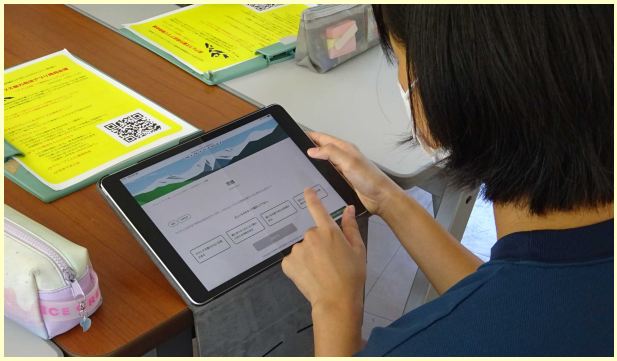
- 将来教育者を目指す大学生が開発チームのメンバーに参画。
- コンテンツ開発を通して将来、教師として南アルプスを教えることができる人材を育成。

No	開発チームメンバー
1	静岡大学教育学部教授
2	静岡大学教育学部大学4年生
3	筑波大学山岳科学センター（井川演習林）
4	帝京科学大学教授（環境教育研究）
5	システム開発事業者
6	NPO法人ホールアース研究所

教育現場の声を活かすための取組例①

《井川、本川根中学校》





《生徒からの主な意見・感想等》

○電子端末
- 知らないことを知るきっかけになるが、クイズを進めることばかりに頭が行ってしまい、解説をほとんど読まない感じがする。
- 絵で選ぶような問題があってもいい。
- ゲームの感覚でレベル分け、レベルアップ等があってもいい。

○体験学習
- 普段から大井川を見ているが、この地がエコパークであり、そこに住めていることが大変貴重だと気づけた。
- 赤石があることは知っていた。海の石が山にある理由がわかった。
- 遠方の学校では貸出しセットや画像をダウンロードすることが出来ると良い 。

教育現場の声を活かすための取組例②

《静岡大学主催トップガンプロジェクト》

《トップガンプロジェクトとは》

静岡大学付属浜松小・中学校を拠点校とし、理系に優れた素養・興味をもつ小中学生を支援し、未来の理系人材の育成を行うプロジェクト

《生徒からの主な意見・感想等》

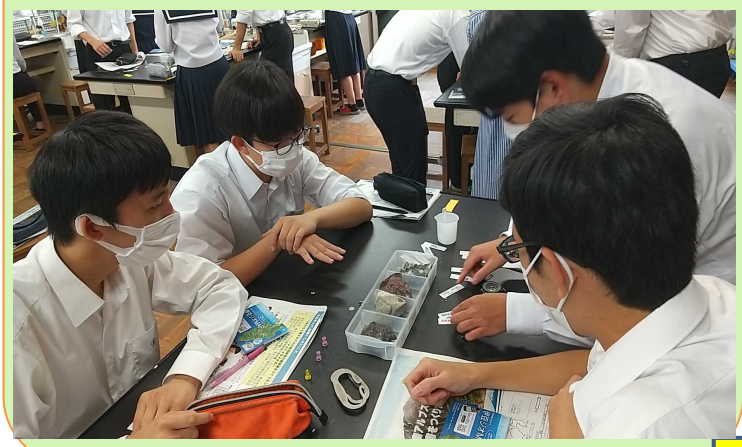
- 南アルプスのために、国や県がどのような対策をしているのか、自分に何ができるのか知りたい。
- 南アルプスにもたくさんの生きものがいることが分ったが、どうやって高山の厳しい環境に適応できたのか知りたい。
- 自然の問題ばかりではなく、水の問題も扱って欲しい。
- ヒント自体がわかりにくい問題があった。

今後の予定（令和５年１月～運用開始）

子ども達の目に輝きを与え続けます

《南アルプスを自ら探求する》

- 南アルプスに関心を持ち、自ら探求し、その未来に想いを馳せ、南アルプスをより良い形で未来につなぐため、自ら行動の輪に参画できる人を育てます。



《子ども達の笑顔があふれる場に》

- 南アルプスを学び、楽しみ、理解できる場、機会を提供します。
- その中で、登山者の拠点であった『椹島』の新たな活用方法を提案します。

南アルプスをより良い形で未来につなぐ